2024年09月15日（日）13:00 - 15:00（3階31会議室）

日本教育心理学会第66回大会
発達 PE004

友人関係における状況に応じた切替の4類型と多様性志向および孤独感類型（LSO）の関連

——不使用型を適応的とみなすのは果たして適当か？——

初版（2024年09月14日）

←PDF版

大谷 宗啓 (OHTANI, Munehiro)
（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科：滋賀大学配属）
ohtani_m@outlook.com

「状況に応じた切替」（大谷, 2007, 2019）

1990年代後半に登場した「選択化論」が注目した特徴を以下2つの下位概念で整理したもの。

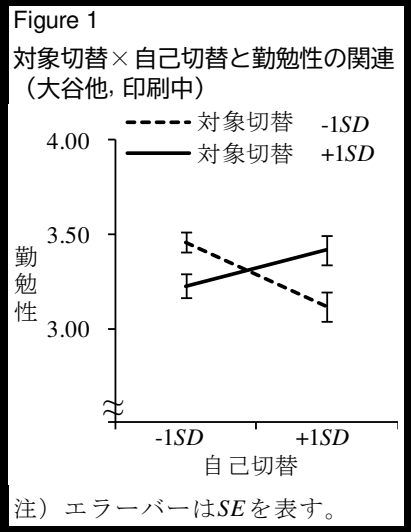
対象切替：状況に応じて関係対象（友人）を切り替えること

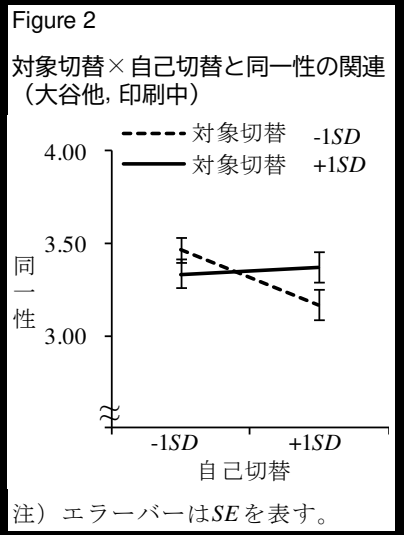
項目例「どこに何をしに行くかによって，最初に誘う友人は違う。」

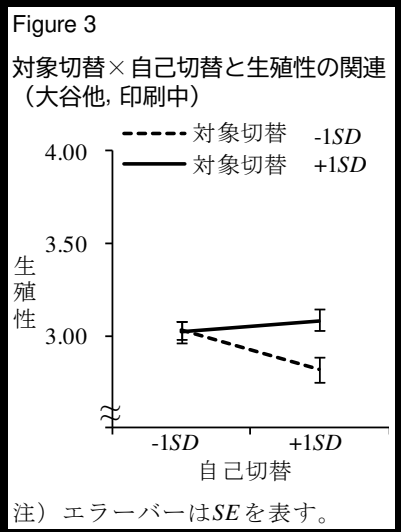
自己切替：状況に応じて自己のあり方を切り替えること

項目例「どんな友人と一緒にいるかによって，自分のキャラ（性格）が変わる。」

組み合わせに着目する必要がある（大谷他, 印刷中）

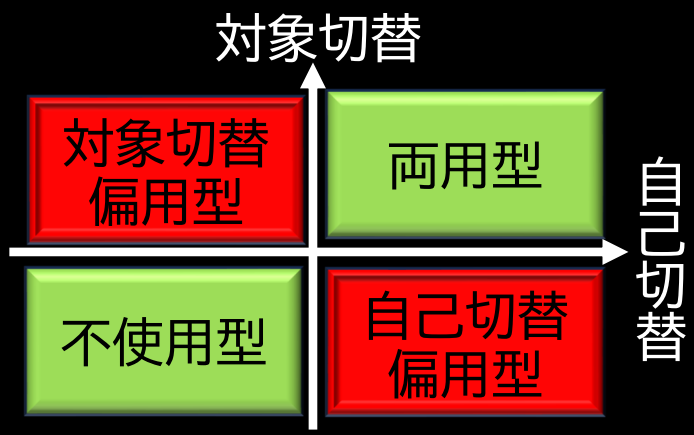






- 対象切替・自己切替の片方を偏用している者は，偏用していない者に比べて適応状態が悪い。
- 勤勉性，生殖性との関連で，発達状態のアセスメントで問題となる範囲の値をとるか否かを左右する。
- それらの結果は，年齢層（大学生・成人）×性を問わず共通。

→異なる調査間で対照しやすいように，標本平均値ではなく評定語の中性値を群分け基準として，↓

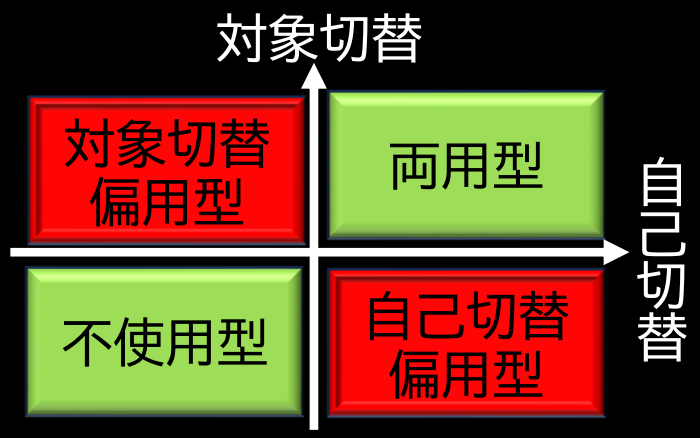


状況に応じた切替の4類型

不使用型と両用型は適応的で，「対象切替偏用型と自己切替偏用型」は不適応的と（一応）考えられる。

RQ:「不使用型」と「両用型」の違いは？

- 大学生では両用型が多数を占め，成人と高齢者では不使用型と両用型の比率が拮抗する（大谷他, 印刷中）。
- 成人期以降では相性の良い相手に限った交友が志向される（O'Brien & Hess, 2020）。



予測1：不使用型の者は両用型に比べ，多様性志向が低い

- 「そんなこと俺に言われてもってことを考えると，選ばないといけないと思うんですけどね」（大谷, 2019の面接協力者）。

予測2：不使用型の者は，人間の個別性を意識していない

Figure 4
LSOの尺度得点による類型判別（落合, 1983, p.336）

LSO-U ＼ LSO-E		人間の個別性に気づいている	
		気づいていない（−14〜−1点）	気づいている（1〜14点）
人間同士は理解・共感できると思っている	できると思っている（1〜18点）	A型	D型
	できないと思っている（−18〜−1点）	B型	C型

- 発達的には，A型→B型→C型→D型に移行（中川, 1991）。
- A型とD型の学校適応・精神的健康が高い（則定, 2008）。

➡ 不使用型の者には，孤独感類型A型の者が多い？

方　法

調査の概要

2023 年 8 月から 2024 年 2 月，近畿地方の大学生 601 名にMS-Forms による無記名式調査への回答を依頼し，331 名の回答を得た。30 歳以上の者と，現在の友人数を 0 名と回答した者を除く男性 131 名，女性 196 名，計 327 名を分析対象とした。平均年齢は 19.66 歳（*SD* = 1.22）。

調査の内容（下記以外の調査内容と分析結果は大谷（2024）で報告）

状況に応じた切替 大谷（2007, p.490）の対象切替 7 項目と自己切替 7 項目。4 件法。

多様性志向 「同性の友人たちとの普段の付き合い方について，あなたの考えに最も近いものを，ひとつ選んでください」と尋ね，「色々なタイプの友人と付き合いたい」（4 点）から「相性が良い友人との関係に集中したい」（1 点）の 4 件法。**→2 点以下を 多様性志向低群，3点以上を多様性志向高群に分類**。

孤独感 LSO（落合, 1983）の下位尺度 LSO-U（人間の理解・共感の可能性についての感じ（考え）方。高得点ほど，難しさに気づいていない）9 項目と，LSO-E（自己（人間）の個別性の自覚。高得点ほど自覚している）7 項目。原典通り「はい」（2 点）から「いいえ」（-2 点）の 5 件法。

切替4類型の人数分布

落合（1983）を参考に，対象切替・自己切替の少なくとも一方が中性点である者を分類不能とした上で，4類型に分類。

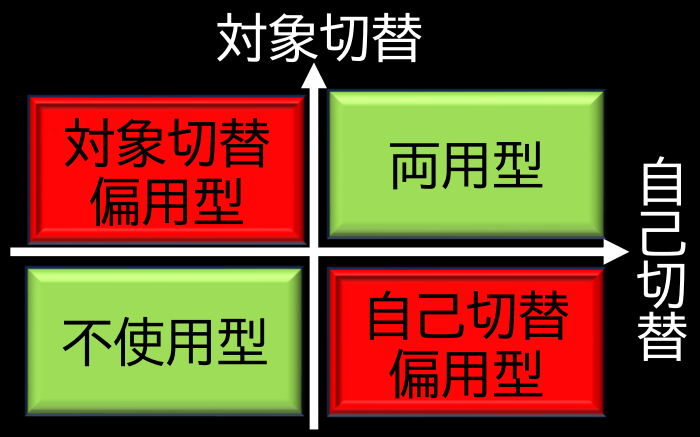


Table 1
切替4類型の人数分布

性	LL	LH	HL	HH	分類不能	$\chi^2(4)$	ES:*w*	Holm法による多重比較
男 (*n*=131)	9.9%	24.4%	6.9%	47.3%	11.5%	72.93 ***	.75	LL・HL＜LH＜HH, 分類不能＜HH
女 (*n*=196)	10.2%	22.4%	8.2%	47.4%	11.7%	104.26 ***	.73	LL・HL・分類不能＜LH＜HH
全体 (*n*=327)	10.1%	23.2%	7.6%	47.4%	11.6%	176.96 ***	.74	LL・HL・分類不能＜LH＜HH

注）不使用型をLL，自己切替偏用型をLH，対象切替偏用型をHL，両用型をHHの略号で示した。男性は*w*≧.30で1-β≧.80，女性は*w*≧.25で1-β≧.80，全体は*w*≧.19で1-β≧.80。多重比較は5%水準で有意な結果を示した。
*** *p*<.001

大谷他（印刷中）の大学生回答者の結果と整合的。

孤独感類型の人数分布

落合（1983）に従い，LSO-U・LSO-Eの少なくとも一方が中性点である者を分類不能とした上で，4類型に分類。

LSO-U ＼ LSO-E		人間の個別性に気づいている	
		気づいていない（−14〜−1点）	気づいている（1〜14点）
人間同士は理解・共感できると思っている	できると思っている（1〜18点）	A型	D型
	できないと思っている（−18〜−1点）	B型	C型

Table 2
LSO類型の人数分布

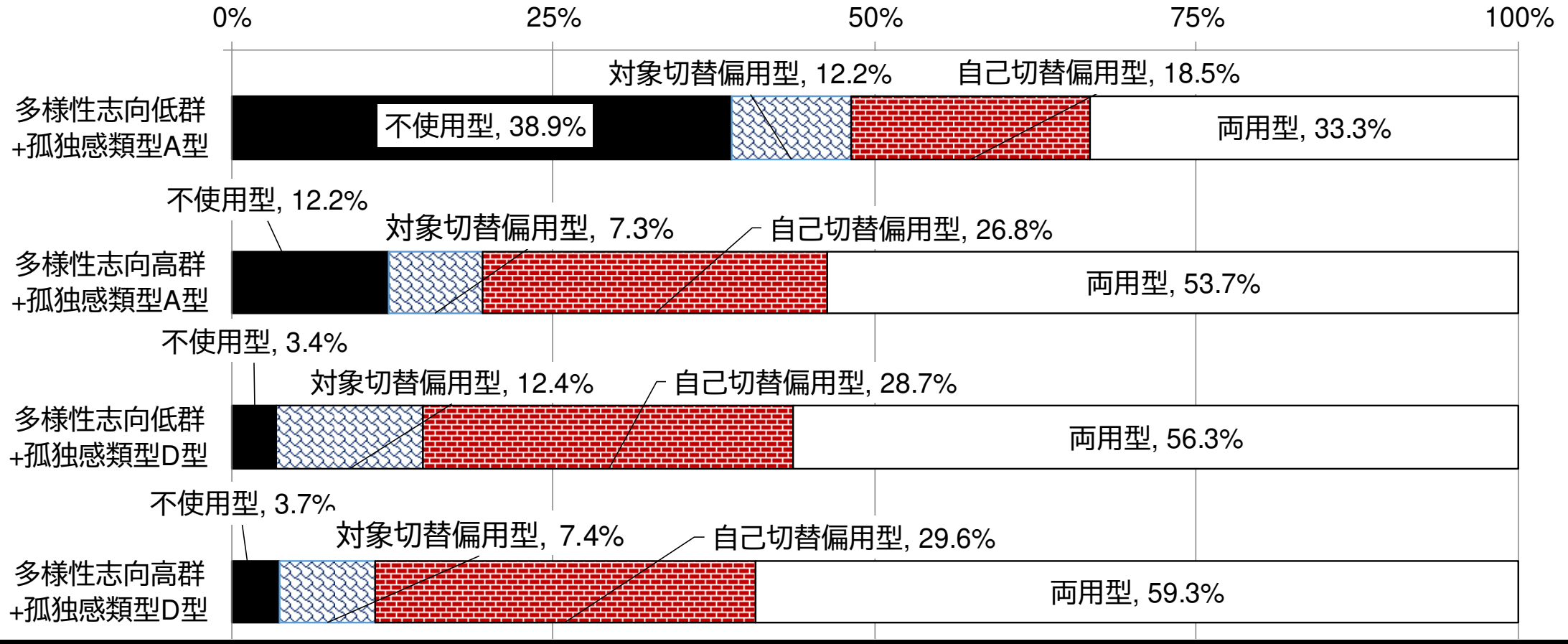
性	A型	B型	C型	D型	分類不能	$\chi^2(4)$ [a]	ES:*w*	Holm法による多重比較
男 (*n*=131)	28.2%	0.8%	6.9%	51.9%	12.2%	110.64 ***	.92	B型＜C型・分類不能＜A型＜D型
女 (*n*=196)	35.7%	0.0%	6.6%	45.4%	12.2%	80.86 ***	.88	C型・分類不能＜A型・D型
全体 (*n*=327)	32.7%	0.3%	6.7%	48.0%	12.2%	256.84 ***	.89	B型＜C型＜分類不能＜A型＜D型

注）男性は$w \geqq .30$で$1\text{-}\beta \geqq .80$，女性は$w \geqq .25$で$1\text{-}\beta \geqq .80$，全体は$w \geqq .19$で$1\text{-}\beta \geqq .80$。多重比較は5%水準で有意な結果を示した。
*[a] B型の者がいなかった女性は$df=3$，その他は$df=4$。
*** $p<.001$

先行研究（e. g. 中川, 1991; 芝崎, 2019）の結果と整合的。
A型とD型の者のみ以降の分析に使用。

切替4類型×多様性志向×孤独感類型の人数分布

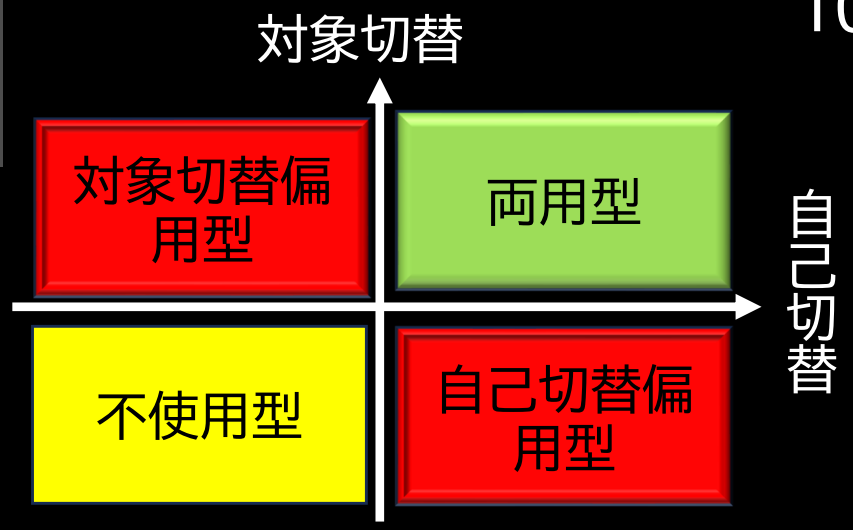
Figure 5
切替4類型×多様性志向×孤独感類型の人数分布



多様性志向低群＋孤独感類型A型の場合に不使用型が多く，両用型が少ない。

討　論

不使用型に相当する者の適応感の高さが，これまで示されてきた。大谷他（印刷中）もそうであった。が…



本研究の結果が示すこと

相性が良い者に交友相手を限定し，相互理解の難しさに気づかず，人間の個別性を意識していない場合に不使用型が多い。

- 不使用型の人々の適応感の高さを，どのように考えるか？
- 不使用型の人々が高い適応感を感じる社会を，どのように考えるか？

引用文献と使用した統計ツール

Faul, F., Erdfelder, E., Lang, A-G., & Buchner, A. (2007). G*Power 3: A flexible statistical power analysis program for the social, behavioral, and biomedical sciences. *Behavior research methods*, *39*, 175-191. https://doi.org/10.3758/BF03193146

中川 純子 (1991). 青年期における孤独感の意義――孤独感と主観的自己像を通じて――　日本教育心理学会第33回総会発表論文集, 285-286. https://doi.org/10.20587/pamjaep.33.0_285

則定 百合子 (2008). 中学生における孤独感と学校適応・精神的健康との関係　神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, *1*(2), 17-21. https://doi.org/10.24546/80060020

O'Brien, E. L., & Hess, T. M. (2020). Perceived benefits and costs contribute to young and older adults' selectivity in social relationships. *GeroPsych: The Journal of Gerontopsychology and Geriatric Psychiatry*, *33*(1), 42–51. https://doi.org/10.1024/1662-9647/a000218

落合 良行 (1974). 現代青年における孤独感の構造 (1)　教育心理学研究, *22*(3), 162-170. https://doi.org/10.5926/jjep1953.22.3_162

落合 良行 (1983). 孤独感の類型判別尺度 (LSO) の作成　教育心理学研究, *31*(4), 332-336. https://doi.org/10.5926/jjep1953.31.4_332

大谷 宗啓 (2007). 高校生・大学生の友人関係における状況に応じた切替――心理的ストレス反応との関連にも注目して――　教育心理学研究, *55*(4), 480-490. https://doi.org/10.5926/jjep1953.55.4_480

大谷 宗啓 (2019). 大学生にとって友人関係における状況に応じた切替とはどのような体験なのか――自由記述と半構造化面接によるボトムアップアプローチ――　滋賀大学教育学部紀要, *68*, 99-113. http://hdl.handle.net/10441/00015756

大谷 宗啓 (2024). 不使用型はナイーブ？――友人関係における状況に応じた切替の4類型別の，友人数，多様性志向，LSO-U，LSO-E，精神内的罪悪感，対人摩耗の比較――　日本心理学会第88回大会発表論文集 , (Web発表) https://re2.sakura.ne.jp/ohtani/jp/jpa88th.pdf

大谷 宗啓・渡部 雅之・若松 養亮 (印刷中). 大学生・成人の心理社会的発達と同性友人関係における対象切替・自己切替・対人ストレッサー経験頻度の関連――対象切替と自己切替の交互作用に着目する必要性――　青年心理学研究, *36*(1), 1-25.

芝崎 良典 (2019). 孤独を感じやすいひとはどんなひとか――孤独感類型と孤独感との関係――, 日本心理学会第83回発表論文集, 874. https://doi.org/10.4992/pacjpa.83.0_3D-068

芝崎 良典・芝崎 美和 (2020). ひとと理解しあえるという思いと孤独感との関連 日本教育心理学会第62回総会発表論文集, 260. https://doi.org/10.20587/pamjaep.62.0_260

清水 裕士 (2016). フリーの統計分析ソフトHAD――機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案――　メディア・情報・コミュニケーション研究, *1*, 59-73. http://hdl.handle.net/11150/10815